

非営利団体向けスニーク・ピーク: NetSuite 2022 リリース 1 によるオンライン寄付および管理の簡便化

Rashmi Singh, Nonprofit Industry Principal Product Manager

2021 年は非営利団体にとって正常化の兆しが見えた年でしたが、その一方で組織の再構築を見据えたときに多数の課題も明らかになりました。労働力不足、一様とはいえない回復、寄付金の減少と援助を受ける人々のニーズが増えていることなどは、今日の非営利団体が直面している課題のほんの一部にすぎません。

NetSuite 2022 リリース 1 では、非営利団体における財務管理、従業員のエンゲージメント、オンライン寄付の受領のために必要なツールが提供されています。この最新版には、デジタルによる資金調達と運営によってもたらされる機会を生かすために[非営利団体が現在必要とする](#)機能が含まれています。

オンライン寄付の受取を簡単に

- Web 経由での[寄付を望む寄付者](#)がますます増えていることを受け、NetSuite 2022 リリース 1 では、非営利団体がオンラインで寄付を受け取ることができるようになりました。寄付者は、組織の Web サイトや電子メールに追加可能な[支払リンク](#)からオンラインで簡単に寄付ができます。また、寄付を繰返しとして指定したり、特定のプログラムやイニシアチブにタグ付けすることも可能です。

この新機能により、寄付者はさらに、SuiteCommerce の MyAccount ページから自分の寄付を管理できるようにもなります。さらに、寄付者は日付、金額、非営利団体の納税 ID 番号が記載された[税金受領書](#)をダウンロードできます。これによって非営利団体の従業員の作業が軽減されるとともに、寄付者が望むレベルの可視性およびドキュメンテーションを実現できます。

Online Donation: ABC Company

Welcome Gift donor!

CHOOSE ONE OPTION	AMEX CARD PAYMENT	OPTIONAL *
<p><input checked="" type="radio"/> One Time <input type="radio"/> Monthly</p>	<p>NAME ON CARD <input type="text"/></p> <p>CARD NUMBER <input type="text"/></p> <p>MM/YY CVC CODE <input type="text"/> <input type="text"/></p> <p>POSTAL CODE <input type="text"/></p> <p>EXPIRY DATE Month <input type="text"/> Year <input type="text"/></p> <p><input type="checkbox"/> I agree with the Terms and Conditions</p> <p><input type="button" value="Donate Now"/></p>	<p>EMAIL ADDRESS <input type="text"/></p> <p>PHONE NUMBER <input type="text"/></p> <p>* You can choose to add your email ID or Phone number for communication purpose only.</p>

Web サイトや電子メールに決済用のリンクを追加して、簡単にオンライン寄付ができるようにします。

手持資金や割当、今後のキャッシュ・フローについての最新のインサイト

- [NetSuite 2020 リリース 2](#) から、会計担当者やコントローラ、買掛金担当者および売掛金担当者が関係会社間の請求書と支払請求書をペアリングできるようになりました。2022 リリース 1 での関係会社間トランザクション照合の機能拡張により、スタンドアロンの関係会社間クレジット・メモと前払金/買掛金調整を簡単にペアリングできるようになりました。これにより、関係会社間発注書と注文書をペアリングするための完全なワークフローを作成する必要がなくなり、関係会社間請求における手作業および不一致を減らすことができます。この機能は、とりわけ非営利子会社がある営利企業にとって役立ちます。
- 非営利団体にとって、現在の資金ポジションおよび将来のキャッシュ・フローを可視化することは、寄付のトレンドが変化する中でいっそう重要になってきています。キャッシュ 360 ダッシュボードにより、組織は十分な手元資金を確保できるように資金ポジションについての最新のインサイトを取得できるとともに、6 か月先のキャッシュ・フローを完全に可視化できる 360 度ビュー・ダッシュボードによる予測も可能となります。キャッシュ・フロー予測には、現在の NetSuite トランザクション・データおよび予測される回収と支払が反映されます。また、キャッシュ・フロー予測に影響する(資本支出や現金以外による多額の寄付などの)任意のトランザクションを含めるようにカスタマイズすることも可能で、これにより予測がより包括的でインタラクティブ、かつ正確な、しかも会社の状況に合ったものになります。

- 労務費の割当機能により、プログラムやプロジェクト、助成金への給与原価(給与+付加厚生給付)の配賦を自動化し、プログラムまたはプロジェクトの経費を可視化するとともに、コスト請求可能な助成金の原価を補助金投与者に請求するプロセスを合理化できます。この機能はこれまでも NetSuite SuiteSuccess Social Impact Edition の一部として提供されていましたが、今回、すべての NetSuite のお客様にご利用いただけるように拡張されました。

1 回限りおよび定期的な寄付の請求が簡単に

- 一括顧客入金に関する新機能により、会計チームが寄付者ごとに寄付金を記録して未収請求書に適用する必要がなくなりました。かわりに、1つの NetSuite 画面で複数の顧客からの支払を受領できるようになりました。また、定期的な寄付を行う寄付者がいる非営利団体の場合、ユーザーが指定した日付に基づいて定期的なクレジット・カード支払のトランザクションが自動的に作成され、これはプロセスの促進と正確性の向上につながります。

強力かつ一貫したパフォーマンス管理を可能にするその他のツール

- [SuitePeople](#) のパフォーマンス管理に関する新しい機能拡張により、マネージャーと従業員の両方が目標を管理する余地が増えました。従業員は、承認されていない、本質的でない、あるいは不要な目標を削除できるようになります。マネージャーと直属の部下の両者が目標の変更や進捗状況を 1 箇所で確認できるため、連携およびコミュニケーションが深まります。新しいマネージャー・ダイジェスト機能では、チームの業績、目標の進捗、注意が必要な分野といった最新情報が月 1 回のメールによりマネージャーに対して提供され、これにより組織の連携がさらに高まります。
- さらに、NetSuite 2022 リリース 1 には、SuiteAnalytics を使用して業績レビューを受ける従業員のグループを定義することにより業績レビューのプロセスを簡素化する、高度なスケジューリング機能が搭載されています。人事マネージャーは、業績レビューを従業員の特定のサブセットに送信したり、開始日から一定の時間間隔でレビューが行われるように自動的にスケジュールできます。

データセットのリンクの簡便化による可視性の向上

- 単一の [SuiteAnalytics](#) ワークブックで複数のデータセットを分析するには、これまで SuiteScript API を使用してコードを記述する必要がありました。NetSuite 2022 リリース 1 の SuiteAnalytics では、必要なリンクをドラッグ・アンド・ドロップすることで、コードを一切記述せずに複数のデータセットを 1 つのワークブックにリンクする、新しいインターフェースが導入されました。この新しいインターフェースにより、予算と実績、予測と実績、計画と実績といった各分野におけるビジネス・パフォーマンスの分析にかかる時間およびリソースが削減されます。

NetSuite 2022 リリース 1 の詳細情報

このブログ投稿では、NetSuite 2022 リリース 1 の新機能のハイライトをいくつか紹介しています。非営利団体がこの最新版をどのように利用できるかの詳細は、[リリース・ノート](#)を参照してください。

機能拡張についてさらに細かく調べる場合は、[リリース・プレビュー・テスト・アカウント](#)へのアクセスも忘れずにお申し込みください。これにより、ハンズオン・アクセスによりすべての新機能がお客様のデータ、ワークフローおよびカスタマイズでどのように役立つか試してみることができます。

上記の事項は、オラクルの一般的な製品の方向性の概要を説明するものです。また、情報提供を唯一の目的とするものであり、いかなる契約にも組み込むことはできません。マテリアルやコード、機能を提供することのコミットメント(確約)ではないため、購買決定を行う際の判断材料になさらないでください。オラクル製品に関して記載されている機能の開発、リリース、時期および価格については、オラクルの単独の裁量により変更される可能性があります。